

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2024-2025
Autumn-Winter No. 48

学び 究め 貢献する



特集 国際交流

グローバル社会の中で
活躍し続けるために。



P4



P6



P8



P10



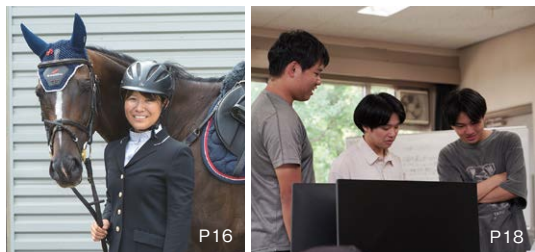
P11



P12



P14



P16



P18

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2024-2025
Autumn-Winter No.48

published by



MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構



岐阜大学

04-11 【特集】国際交流

岐阜大学の国際交流

岐阜大学 副学長
(国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(調)・図書館(調) 担当)

リム・リーワ 教授

留学座談会

工学部 電気電子・情報工学科 情報コース 3年

溝口 翔太 さん

地域科学部 地域文化学科 3年

高橋 葵 さん

連合農学研究科 博士課程 1年

サチラ さん

連合農学研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 (IITG)

国際連携食品科学技術専攻(ジョイント・ディグリー制度) 博士課程 2年

チェトナ・サルマ さん

ジョイント・ディグリープログラム活動

岐阜大学グローバル推進機構 副機構長/地域国際化推進部門長

海老原 章郎 教授

学生交流活動

岐阜大学グローバル推進機構 副機構長/留学推進部門長

嶋 睦宏 教授

日本語・日本文化教育センター

岐阜大学グローバル推進機構 副機構長/日本語・日本文化教育センター長

橋本 慎吾 教授

12-13 先輩の声

サークル活動や留学など幅広い経験を積めたことが
今の仕事に生きている。

イビデン株式会社 製品開発

吉川 裕樹 さん

2011年 工学研究科 機能材料工学専攻 修了

イビデン株式会社 生産戦略

内田 景子 さん

2019年 自然科学技術研究科 生命科学・化学専攻 修了

14-15 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。

ゲノム編集マウスを活用することで犬の遺伝性疾患の原因を特定し、
「遺伝子の外科治療」の開発につなげたい。

岐阜大学応用生物科学部 共同獣医学科 宮脇 慎吾 准教授

16-19 いまを駆ける!岐大生FACE

馬の持つ力を引き出せるように、
深い信頼関係を築き、ゴールを見つめて走り抜きたい。

岐阜大学 馬術部 岡部 恭佳 さん

“60分の1秒”で、すべてが決まる。
精神力と指先ひとつで闘うeスポーツの魅力をもっと広めたい。

岐阜大学 e-sports同好会 代表 加古 翔太 さん

20-21 Topics 岐阜大学の取り組み Apr.2024→Nov.2024

22 岐阜大学基金



岐阜大学は「学び、究め、貢献する」という理念のもと、

「教育と研究の特性を生かした大学の国際化を推進し、学生と教職員の国際性を高めて、
地域社会の活性化に貢献する」ことを目標に掲げています。

現在、インド工科大学グワハティ校をはじめ20カ国50大学と大学間学術交流協定を締結。

異なる言語や文化に触れる機会を増やし、

グローバル化に対応できる人材の育成と大学づくりに取り組んでいます。

今回の特集では、地域に根差した国際化と成果の地域還元を推進する
グローバル推進機構の教員をはじめ、海外留学を経験した学生や
外国人留学生たちの生の声をお届けします。



Interview

岐阜大学の 国際交流

岐阜大学 副学長
(国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・図書館(副)担当)
リム・リーワ 教授(工学部所属)

留学生から選ばれ、Global Citizenが育つ大学に

岐阜大学は「地域に根ざした国際化」によって「成果の地域還元」を果たすことを目指し、インド工科大学グワハティ校などと協働し多彩な国際交流プログラムを展開、キャンパスの国際化を推進しています。岐阜大学が推進する国際化の方針や特徴を、自身も岐阜大学への留学経験を持つ、リム・リーワ副学長に聞きました。

教育と研究の国際化を 2015年から推進

Q 岐阜大学の国際化にどのような関わっておられますか？

私はマレーシア国民大学を卒業した後、シンガポールの企業勤務などを経て2000年に岐阜大学に留学し、工学部の教員になりました。前学長の時代に、岐阜大学として国際化に取り組むこととなり、岐阜大学グローバル推進本部が設置された2015年、全講義を英語で行う大学院工学研究科のプログラム設置に携わりました。後にジョイント・ディグリープログラム(JDP/P8参

照)を設置する際には、母校であるマレーシア国民大学との橋渡し役を買って出ました。今年度からは副学長として、国際展開などを担当しています。

Q 国際交流方針と具体策を教えてください。

岐阜大学が目指す「地域に根ざした国際化」「成果の地域還元」とは、海外留学を経験した学生や外国人留学生が、卒業後に地域で国際的な視点を持って活躍することです。そのために次のような方針の下、教育と研究の国際化を推進しています。

まず、海外大学との協定です。大

学間では20カ国50大学、部局間では25カ国1地域の61大学と学術交流協定を結び、岐阜大学と海外協定校の学生向けに交換留学やサマースクールその他、短期の研究留学など多彩な留学プログラムを実施しています(P10参照)。キャンパスの国際化に力を入れ、2015年からは英語表記の案内板を整備してきました。

また、留学生が日本で就職し、地域で活躍できるように、日本のマナーや文化に慣れるためのセミナーを設ける他、日本の企業や研究所での仕事を体験するグローバルインターシップを必須化。現在、工学部では外国人留学生の4割が、岐阜・愛知県内を中心に日本国内で就職しています。

「学生ファースト」が 制度のポイント

Q 岐阜大学ならではの国際交流の特徴は？

岐阜大学の国際交流は、海外協定校との間での国際共同研究をメインにしている点が大きな特徴です。1カ月以上にわたる共同研究を行う外国人研究者の受け入れや、若手を中心とした研究者の海外派遣や招へいのための助成を積極的に行っています。

また、日本に協定校が少ないインド工科大学グワハティ校をはじめ、カナダのアルバータ大学、オーストラリアのグリフィス大学など、世界ランキング上位の大学と一緒に共同プログラムも豊富です。

Q 留学する学生へのバックアップ体制は？

学生ファーストの支援を行っています。留学中は一般的に入学した大学と留学先の両方で学費がかかりますが、岐阜大学の学費を免除する制度を設けて負担を軽減し、学生の挑戦を後押ししています。

学生の派遣先選びに当たっては、相手校の教員と交流があり現地のことをよく知るリエゾン(つなぎ役)の教員が学生に合った派遣先を判断しています。私自身も、マレーシアやインドネシアの大学とのリエゾンを担当しています。協定校の中には、学生の行き来が活発でない大学もありますが、リエゾン教員がうまく調整して連携をもっと深めて活用できるようにしたいです。

職員向けには、アルバータ大学に1~2週間赴き、現地の同職種の部署と交流する公募制の海外研修も実施しています。本人の視野が広がる効果もありますが、職員同士の面識ができると、留学生の手続き上の

やりとりがスムーズになることが多く、学生のためにもなります。

Global Citizen を目指し 継続できる国際交流を

Q 注目すべき新しい取り組みは？

現在の協定校はアジアやインドが中心ですが、博士課程の学生にとって魅力的な研究ができる留学先を増やすため、ヨーロッパの大学との協定にも力を入れており、近年ではフランスのリール大学との交流も活発化しています。

岐阜県との協力による新たな協定も拡大しています。杉原千畝記念館があるリトアニアの大学とはすでに学術交流協定を結んでいましたが、大統領が2019年の岐阜県来訪時に来校されたのをきっかけに、さらなる連携を進めています。モロッコのラバト国際大学は、大使の来校や岐阜大学学長の現地訪問を機に、2024年7月、エネルギー分野で工学部と、また観光分野で社会システム経営学環と協定を締結。同じ月に、ウズベキスタンのサマルカンド国立医科大学は医学部との友好関係強化に合意しました。今後もこれまでに以上に学生ファーストな取り組みの充実を図っていきます。

Q 今後の目標や将来ビジョンは？

短期的な目標としては、留学生の受け入れを増やしたいです。文部科学省はJ-MIRAI※において、2033年までに日本人学生の海外留学者数50万人、外国人留学生の受け入れ数40万人の実現を掲げました。国立大学協会は、2040年までに留学生を全学年の3割に増やす方針を打ち出していますが、岐阜大学の現状は学生数約7,500人中、留学生はアジアを中心に296人と約4%。私の

任期である2025年度末までに、短期留学生も含めて7%まで増やしたい考えです。

そのために必要な教職員の意識改革を進めています。若手の教員には、まず自分で現地へ行って知り合った学生を短期留学生として受け入れることから始めて、受け入れるメリットを感じてもらいたいと考えています。最近「ぜひ留学生を紹介してほしい」と前向きな先生方の声が増え、うれしく思っています。

国際交流によって最終的に目指すことは、海外の留学希望者が「岐阜に行きたい」と選び、卒業後も岐阜に定着してくれること。また岐阜大学生には英語に限定せず、自分が抵抗なく学べる外国語を見つけて習得し、Global Citizen、つまり「地球人」になってほしいと願っています。

※J-MIRAI:未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ



サマルカンド国立医科大学と友好関係強化に合意



日本文化体験(雅楽イベント)

留学座談会



■ 高橋さん

司会者
■ リム・リーワ 副学長

■ チェトナさん

■ 溝口さん

■ サチラさん

異国の地で学ぶ経験が、 新たな学びの可能性を広げてくれる

日本から海外へ、海外から日本へ。岐阜大学が提供する多彩な留学プログラムを利用した、学部や国籍の異なる学生4人に、留学を経験したからこそ学びと将来像について話を聞きました。

語学に文化、研究。 目的に合わせて選んだ留学の形。

リム 皆さんはそれぞれ違うプログラムで留学を経験していますね。学部生の二人は、どんな理由で海外留学をしようと思ったのですか？

溝口 私は海外への純粋な興味から大学生になったら留学したいと思っていて、コロナ禍の制約が無くなった2年次に、英語を習得する短期留学のESL (P10参照)に参加しました。中でも期間が5週間と長くホームステイができるオーストラリアのグリフィス大学のコースを選び、英語での授業を経験しました。

高橋 私は高校時代に英語の勉強をする中で海外の文化にも興味を持ち、留学がしたくて地域科学部に入

学しました。学部の国際教養プログラムの留学先として選んだのは、岐阜大学からの参加実績が多いアメリカのノーザンケンタッキー大学への交換留学です。先輩から、「ダンスなどアメリカらしい授業も受けられる」と聞いて惹かれ、留学中はハロウィンやクリスマスなど現地ならではのイベントも積極的に体験しました。

リム サチラさんはどうして岐阜大学を選んでくれたのですか？

サチラ 子どもの頃からアニメや漫画で日本の生活や文化に親しんできたので、日本に興味がありました。岐阜大学に留学した知人から情報をもらうようになり、中国で大学時代に専攻した動物科学と同じ分野の研究があると知り、修士課程での留学を決めました。修了後は帰国して就職し

ましたが、博士課程で研究を続けるため、また日本に戻ってきました。

リム チェトナさんはジョイント・ディグリープログラム (JDP) ですね。

チェトナ はい。一定期間を岐阜大学で学ぶ予定です。日頃からインド工科大学グワハティ校 (IITG) の先生に、「International Exposure (海外に出ること)を経験して、意識を変えることが大切」と言われていたこともあり、自分に無い視点や技術を学べると期待して来日しました。

コミュニケーションの大切さと 文化の違いを認めること。

リム 実際に留学をして、どんな気づきや学びがありましたか？

チェトナ 最初は静かで落ち着いた

日本の環境に驚きましたが、今では慣れました。インドは車のクラクションや人の話し声が絶えないので、帰国したら戸惑うかも (笑)。

リム 研究の面ではどうですか？

チェトナ お茶の葉に含まれる成分を増やして虫害を防ぐ研究を、インドの先生の共同研究相手である先生方の下で進めています。インドでは主に学内のラボで試験管を使った実験をしていましたが、岐阜大学ではフィールドワークが多く学外のお茶工場を訪れるなどして実験を行い、大型の分析機器を使う技術も習得しています。

サチラ 私は鶏卵の卵白に含まれる酵素であるリゾチームの抗菌メカニズムを研究しています。同じ研究室には猫や犬、ウズラなどの研究をしている人も。中国と違い日本の研究室では、先生の研究と同一テーマでなくても、関心のある研究に先生の支援の下で取り組むことができます。最初は日本語を全く話せなかったのですが、担当チューターと身振り手振りでコミュニケーションを図るうちに仲良くなりました。自信を持って話せば言語能力は向上できることを学びました。

溝口 私も留学して最初のうちは、話す前にどう言おうか頭で考えてしまっていました。でも、ホストファミリーや同じ大学に通う韓国や中国からの留学生が、「おはよう」など知っ

ている日本語を片言でも話してくれたことで、自分ももっとリラックスして英語をしゃべってみようと思えました。伝えたい気持ちを持ってコミュニケーションを取ったことで、視野が広がる貴重な経験ができました。

高橋 私は現地の友人と話す中で、宗教について質問されて明確に答えられなかったことが印象に残っています。友人の多くはキリスト教で、日曜には必ず礼拝に行くなど信仰心が厚く、戸惑いながらも考えさせられました。1年の滞在期間中にはうれしいことやトラブルもありましたが、「この国の人だから」という固定観念ではなく、その人自身を理解する大切さも学びました。

獲得した視点や技術が、 これからの学びや人生の糧に。

リム 留学での学びや経験を今後どう活かしていきたいですか？

高橋 国ではなく人を見るという考え方は、これからの人生全般に活かしていきたいです。将来は海外に関わる仕事に就きたいと漠然と思っていますが、留学中に岐阜市の姉妹都市であるシンシナティで開かれたPRイベントに参加して、岐阜の魅力を改めて感じました。日本の良さを海外に広める活動にも興味を持っています。

溝口 私も具体的な進路はまだ決め

ていませんが、海外との研究や仕事に興味はあります。今日、博士課程のお二人の話を聞いて、これから研究に取り組むのが楽しみになりました。在学中に研究留学をしたいとも思いましたし、JDPにも関心を持ちました。まずはIITGで行われるスプリングスクールに参加してみたいですね。

リム 工学部独自の提携校もあるし、修士の留学制度もありますから、ぜひ研究留学してください。工学研究科のJDPは、インドの他にマレーシアもありますよ！

チェトナ 私はIITGに戻って研究の続きに取り組みます。実験装置などは違いますが、重要なのは岐阜大学で学んだ研究の技術。それがあればIITGにある装置や試薬を使って、十分に研究が続けられます。将来、優良企業で活躍するためにも、Ph.D. (博士号) 取得と博士課程修了後に研究に従事するポストドクターを目指します。

サチラ 私はまず、3年間で博士号を取得することが目標です。将来は大学教員になりたいと思っていましたが、今は企業の開発職やポストドクターにも興味があり迷っています。できれば日本で働きたいですね。

リム 岐阜大学では皆さんの夢を応援し、さまざまなサポートを行っています。本日の座談会では、有意義な話を共有できました。皆さんのこれからの活躍を応援しています！



岐阜大学からオーストラリアへ

溝口 翔太 さん
工学部 電気電子・情報工学科
情報コース 3年
2023年度 グリフィス大学ESLに参加



岐阜大学からアメリカへ

高橋 葵 さん
地域科学部 地域文化化学科 3年
2023年8月～2024年5月
ノーザンケンタッキー大学に交換留学



中国から岐阜大学へ

サチラ さん
連合農学研究科 博士課程1年
(中国 内蒙古民族大学卒業)



インドから岐阜大学へ

チェトナ・サルマ さん
連合農学研究科 岐阜大学・
インド工科大学グワハティ校 (IITG)
国際連携食品科学技術専攻
(ジョイント・ディグリー制度) 博士課程2年



ジョイント・ディグリープログラム活動

高い専門性を持ち、 国を超えた協働で産業に 貢献できる人材を育成



東海国立
大学機構



UNIVERSITI
KEBANGSAAN
MALAYSIA
The National University
of Malaysia

岐阜大学グローバル推進機構 副機構長／地域国際化推進部門長
海老原 章郎 教授（応用生物科学部所属）

岐阜大学と海外大学、 両校共同の学位を取得

私は以前から研究を通じてインドの教員と交流があり、その中で度々「どうしたら互いの国の産業に貢献する人材を育成できるか？」が話題に挙がりました。解決策の一つとして導入したのが、2014年に文部科学省が創設したジョイント・ディグリープログラム（JDP）制度です。

JDPは日本と海外、二つの大学の

連名による学位を取得できるプログラムです。日本と海外の大学が共同で一つのプログラムを構築し、このプログラムに参加した学生は両方の大学に在籍し、相手国の大学への留学を経験します。互いの大学で学ぶ期間は違ってもカリキュラムは同一で、修了までの期間や単位数、学費は国内の大学院で学ぶのと同じです。岐阜大学では現在、インド工科大学グワハティ校（IITG）およびマレーシア国民大学（UKM）との間で、修士・

博士の計4つの国際連携専攻を開設しています（下記の図参照）。岐阜大学のJDPは、約90社が加盟する産官学金「JDPコンソーシアム」を活用し、国際連携教育に貢献するグローバルJDPプラットフォームを形成。外国人留学生のインターン受け入れなど、人材育成面で協力を得ています。

全国の大学に30専攻あるJDPのうち、岐阜大学と名古屋大学で計11専攻と東海国立大学機構が大きく貢献していることから、全国大学

JDP協議会の設立を提案。岐阜大学が会長校を務め、制度運用改善や文部科学省への要望を伝える窓口となっています。

国際的に活躍できる 人材育成を展開

JDPに在籍する学生は必ず一定期間の留学を経験します。留学先では留学先の学生として扱われ、語学力とコミュニケーション能力の向上はもちろん、専門分野において世界トップレベルの教員から学び、学位を授与されるにふさわしいレベルに成長できます。研究では一人の学生は日本と海外の両方に指導教員をもち、教員それぞれの強みを活かし、新たな技術や発想を取り入れた相乗効果によって研究を進展させることができます。最大のメリットは、異文化での協働を身をもって学ぶことにあります。留学を終えて帰国した学生は顔つきも見違え、「自分の常識が世界共通ではないと知った」といった声が聞かれます。就職先企業

からは現地学生との協働の経験が高く評価され、インドとのビジネスを展開する企業などで前線に立って活躍しています。学生やこれから入学する皆さんには、違う文化を持つ人と協働する経験を通じて自分のものの見方に気づき、さらに自分の能力にも気づいて自信が持てることを、ぜひ経験してほしいと思います。

JDPとは別に、2022年度には文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択。グローバルな視点から地域課題解決のための活動ができる人材を養成するため、国際連携修了証が授与される「Glocalist」（学部レベル）と「Glocal Expert」（修士・博士レベル）がスタートしました。JDP同様、IITGやUKMとの共同プログラムですが、こうした国を超えた連携はJDP専攻以外にも広がっています。専門性に加え、異文化に適応し協働する力を養えるプログラムをさらに発展させていきます。



1. ジョイント・ディグリーシンポジウム2024（IITGにて） 2. JDPコンソーシアム竹資源利用勉強会（岐阜大学にて） 3. IITGと岐阜大学との交流が日本政府の海外向け広報動画に採用 4. 日本に来た留学生を地元企業へ橋渡し。太陽化学（株）を訪問

JDP参加者の声



岐阜大学からIITGへ
ごとう しゅんた
後藤 駿太 さん
岐阜大学大学院 自然科学技術研究科
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻 2年

留学先では膜工学や先端食品工学など幅広く学びました。講義は現地の学生と一緒に慣れない英語とスピード感に理解が追いつかない感覚があり、予習復習を欠かさず必死に勉強しました。テスト前は24時間開放される大学図書館にこもり、現地の学生と夜を徹して勉強。5カ月の留学で実際に研究に打ち込めたのは1カ月程度、講義と研究の両立が大変でした。拙い英語でも相手は理解しようとしてくれ、ためらわずに話せるようになりました。日本では考えられないような出来事連続で、毎日新しい発見がありました。多様な文化、宗教、環境、人々に触れたことでインドの成長を肌で感じる事ができました。



UKMから岐阜大学へ
ムハマド・イクマル・イズマン
ビン・モハマド・ファドリ さん
岐阜大学大学院 工学研究科
岐阜大学・マレーシア国民大学
国際連携材料科学工学専攻 2年

池田将教授とリム・リーフ教授に学び、自身の研究を完成させるためマレーシアから来日しました。主に超分子の合成・電気化学・クロマトグラフィ・バイオセンサーの開発、FTIR・1H-NMR・UV-Vis装置について学びを深めました。初めて大学に来たときに指導教員と研究室のメンバーが新入生歓迎会を開いてくれ、そこで出された料理はとてもおいしかったです。リサーチ・アシスタント制度を通じた経済的支援、研究に必要な化学薬品や器具の購入には大学のサポートがあります。銀行開設や市役所関連の対応ではチューターが助けてくれました。将来は岐阜大学で学んだことを活かして、マレーシアで講師になりたいです。



岐阜大学からIITGへ
しみず しゅりの
清水 夕梨乃 さん
岐阜大学大学院 自然科学技術研究科
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校
国際連携食品科学技術専攻 1年

国際的コミュニケーション能力や異なる視点での課題設定・解決能力を修得でき、現地学生との学びは学習面の刺激だけでなく国や地域を超えたグローバルな視点を養えると、留学を決意しました。留学にあたっての問題に自分で対処してきたことで、問題解決能力や自主性が鍛えられました。複数の領域を総合的に学ぶ機会を得ており、インド人特有の思考方法、習慣、文化などを深く知り、自分になかった考え方や発想を取り入れていきたいです。留学への期待や不安は、留学を経験することでその期待や不安に対する一番の答えになります。留学先での出会いは、将来への自信や可能性を広げることに繋がっていると思います。



ジョイント・ディグリープログラムの特徴

4つの国際連携 専攻を設置

専攻名	相手大学（国）	学位	標準修業年限
自然科学技術研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻	IITG（インド）	修士	2年
連合農学研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻	IITG（インド）	博士	3年
工学研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携総合機械工学専攻	IITG（インド）	博士	3年
工学研究科 岐阜大学・マレーシア国民大学国際連携材料科学工学専攻	UKM（マレーシア）	博士	3年

国際通用性がある共同学位を取得できる

両大学にて
共同カリキュラムを
履修

共同学位取得

就職先

- ・国際展開する企業
- ・国際的な研究機関
- ・国内外の高等教育機関 など

企業・研究機関のニーズ

- ◎専門性を活かした課題解決力
- ◎実践的英語力とコミュニケーション力
- ◎異文化への理解と適応力

留学を含み標準修業年限内に学位取得が可能

〈一般的な留学〉※博士課程で1年留学する場合



4年かけて日本の
学位を取得

〈ジョイント・ディグリープログラム〉



3年で日本と海外の
共同学位取得

大学在籍中に留学する場合、一般的には休学する形をとるため在学期間が長くなりがちです。しかし、JDPでは、相手大学と共同で専攻設計を行っているため、留学中に取得した単位が修了必要単位として認められます。つまり、留学をしない専攻の学生と同様に標準修業年限の中で在学期間を延長することなく学位を取得することができます。



学生交流活動

グリフィス大学ESLのクラスメイトと留学を通して生まれた夢や目標を語り合いました。

多様な国際交流の機会を提供

岐阜大学が進める国際化において学生間の交流が果たす役割は、多様性や異なる言語・文化、考え方の違いなどの学びを得る貴重な機会を提供することです。国際的に活躍できる力を身につけた学生さんを一人でも多く輩出できればと考えています。

地域に根ざした国際化を掲げるグローバル推進機構の留学推進部門では、学生の国際交流の機会を提供する取り組みを行っています。そのうちの一つが、本学と大学間学術交流協定を結ぶ海外大学の学生を受け入れ、地域の特色を学ぶサマースクールです。毎年10名程度の学生が

来日してこのプログラムに参加します。岐阜大学の学生にプログラム運用のボランティア的な役割を担ってもらうことで、学生同士の交流の機会を増やす工夫をしています。

また、本学の在学生向けには、夏休みや春休みを利用してカナダのアルバータ大学、オーストラリアのグリフィス大学などの海外協定大学や、カリフォルニア大学デービス校において提供される英語研修に参加する、短期留学プログラムを毎年実施しています。英語研修はESL（一般英語研修）と呼ばれる一般的なものと、EST（理系英語研修）と呼ばれる理系学生向けのものがあり、多くの学生が参加しています。ESLやESTは英語を母国語としない人向けの語学研修のため、現地の学生との接点は限られてしまいます。そこで、現地の職員と協力し、留学先の大学生との交流の場を設けるなど、学生同士の接点を増やすように努めています。

今後も、学生の派遣および受け入れの両方で、留学機会のさらなる展開とプログラム内容の充実を図っていききたいです。ただ、留学したい

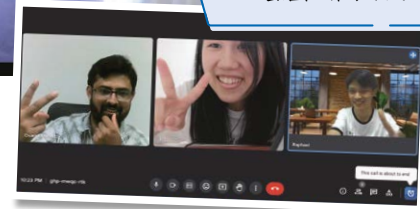
岐阜大学グローバル推進機構 副機構長
留学推進部門長

嶋 睦宏 教授（工学部所属）



学生サポーターを経験！コミュニケーションを取ることで互いの文化や言語を尊重し、理解することができました。

渡航しなくても数か月間オンラインでグループワークを行い、SDGsの気候変動をテーマに動画を作成しました！



と以为いても、経済的な理由で実現が難しい学生は少なくありません。そこで、サマースクールのボランティア募集などオンキャンパスでの国際交流の機会やオンラインツールを活用した国際交流の充実を図り、一人でも多くの学生が国際交流する機会をつくる工夫をしています。今年度は、アメリカの協定校である南フロリダ大学と岐阜大学の学生がオンラインで共に学べるリモート形式のプログラムを予定しており、共修の新たな取り組みとして期待しています。これからも岐阜にしながら世界とつながる機会をつくることで、地域の発展に貢献してくれる人材を育成していきたいと思っています。



本場インドのカレーに挑戦！新鮮な驚きがたまりなく楽しかったです。

日本語・日本文化教育センター

日本語・日本文化を学ぶ機会を提供

日本語・日本文化教育センターは、1995年5月に「留学生センター」という名称で発足した組織です。当初は国費外国人留学生のために日本語教育や修学・生活指導を行うことが主な目的でしたが、30年近くが経過した現在は、学内外の要請に応じて幅広い業務を行っています。メインとなるのは外国人留学生に対する日本語・日本文化教育です。留学生ができる限り短期間で高度な日本語が身につけられるよう、経験豊富な日本語教員たちがきめ細かな指導をしています。このほか、日本人学生に対する国際理解教育、多文化交流機会の提供、地域自治体との連携事業などを担っています。

留学生に対する日本語教育の柱となるのが「日本語研修コース」です。

半年から1年で高度な日本語を習得できる集中コースと、専門の勉強と並行しながら日本語を学べる一般コースの二つがあり、個々のレベルに合わせたプログラムを設定しています。また、母国で日本語や日本文化を専攻してきた留学生を対象に、1年間で集中的に日本語能力の向上を図る「日本語・日本文化研修コース」や交換留学生を対象とした「日本社会文化プログラム」なども提供。これらに加え、サマースクールやウィンタースクールなどの短期留学プログラムで実施している日本語の授業や郡上市で地域交流活動なども行っています。日本文化については、郡上踊りや能楽などに触れるワークショップを開催。日本人学生たちが留学生のチューター役を務める国際交流ラウンジなどを運営しています。

私たちが大切にしているのは、日本で学ぶ、岐阜で学ぶという価値を



岐阜県内外外国人留学生日本語弁論大会で、たくさんの留学生と交流しました！

提供することです。母国ではなく岐阜大学で勉強することの意義は、語学だけでなく文化も一緒に学べる点にあります。そこで、教科書には載らないような経験に力点を置いた教育を心掛けています。特に日本文化においては、日本人でも体験する機会があまりない本物の日本文化に触れるワークショップを提供しており、参加した留学生からの評価も非常に高いです。

岐阜大学では、積極的に新たな国・地域の大学と連携協定を結んでおり、受け入れる留学生もさらに増えます。これからも新たなプログラムを開発し、多様化するニーズに対応した柔軟かつきめ細かな日本語・日本文化教育を行っていききたいです。

岐阜大学で学んで良かったと感じてもらえる教育を増やしたい！



「雅楽」を聞いて平安時代の衣装を着たことは忘れられない経験です！



岐阜市内のイチゴ農家を訪問して、おいしいイチゴを食べました！

岐阜大学グローバル推進機構 副機構長
日本語・日本文化教育センター長

橋本 慎吾 教授





イビデン株式会社 製品開発
 よしかわ ゆうき
吉川 裕樹 さん
 2011年 工学研究科
 機能材料工学専攻 修了

イビデン株式会社 生産戦略
 うちだ けいこ
内田 景子 さん
 2019年 自然科学技術研究科
 生命科学・化学専攻 修了

先輩の声 volume 04

サークル活動や留学など 幅広い経験を積めたことが 今の仕事に生きている。

授業、研究、サークルなど 岐大での充実した学生生活

吉川 私は子どもの頃からものづくりが好きで、材料について専門的に学んでおけば、どんな職種に就いたとしても役立つに違いないと考え、材料分野を学ぶことができる岐阜大学へ進学しました。

内田 私は中学の頃、理科の実験が面白くて化学が大好きになり、岐阜大学に進学して化学を専攻しました。

吉川 大学時代は昼間に授業と研究活動を行い、夕方からはアルバイト

をする毎日でした。大学近辺で一人暮らしをしていたので、岐阜市内の商業施設にあるオムライス店で働いたりしていましたね。

内田 私も一人暮らしをしていて、同じ商業施設のレストラン街でアルバイトをしていました。大学の先輩や後輩がたくさんいて、まるで小さなサークルのような楽しい雰囲気の職場でした。

吉川 休日は同じ学科の友人と遊んだり、テニスサークルの仲間と練習や合宿に出掛けたりしていました。岐大祭の企画運営にも力を入れていて、自分たちで企画から販売まで

行ったことはとてもいい思い出です。

内田 私は大学2年生の時、留学した人の報告会を聞いて海外に行ってみたいと思うようになり、サマースクールに参加してオーストラリアでのホームステイを経験しました。その後もゴビ砂漠での植林ボランティアに出掛け、他大学の学生とつながる機会を持てたことで、友人関係がぐっと広がりました。

吉川 研究室ではエクソールから水素を生み出す技術を研究していました。燃料電池自動車の開発などにつながるもので、自動車が大好きだったことから興味を持ち、東北大



1.新製品の開発業務を行う吉川さん
 2.大学時代に所属したテニスサークルの仲間たち。卒業後もOBとして後輩たちを指導していたそう 3.東北大学との共同研究では、仙台に1週間滞在したことも

4.マレーシアの大学に留学した際、研究室の仲間と撮影した集合写真 5.外国人留学生と英語で授業を受ける「アドバンスド・グローバル・プログラム」のメンバー 6.生産戦略グループでの勤務風景

学との共同研究などにも取り組んでいました。

内田 私は自分自身が留学したのをきっかけに「留学生がたくさん在籍している」という理由でリム先生の分析化学研究室を選択しました。大学院時代には研究室のつながりでマレーシアの国立大学へ留学するなど、異文化に触れるとても良い機会になりましたね。

責任ある業務を通して 自分の成長を実感できる職場

吉川 就職活動を始めた当初は、自動車業界に絞って企業選びをしていたのですが、あまりに好きすぎる分野のため、やりたいことができないと納得できないのではと考え、より幅広い業界に目を向けるようになりました。そして、若いうちから責任ある仕事を任せてもらえる会社を探していたところ、イビデンにたどり着きました。「ありえないをやってやろう」というキャッチコピーに共感したので覚えています。

内田 私も吉川さんに似ています。就職活動の軸にしていたのは、成長の機会があることと、海外に出張できる環境があること。先輩座談会に参加した際、雰囲気が自分に合っていると感じ、若手でもチャレンジさせてもらえる環境がある点に惹かれて志望しました。

吉川 入社後は製品開発業務を担当

しています。新製品のデザインや構造の提案、製品認定、量産化までの一連の業務を担い、2021年からはフィリピン工場への海外赴任も経験しました。コロナ禍だったため、渡航後は2週間のホテル隔離を経験するなど大変な思いもしましたが、初めて部下を持ち、大きく成長できたと感じています。

また、私が入社当時から担当している顧客は、今では世界中から注目を集めるAI半導体メーカーへと成長を遂げました。入社した頃はまだそこまで巨大な企業ではなかったのですが、一緒にビジネスを成長させることができ、とてもやりがいを感じています。

内田 私は生産戦略グループで勤務しています。事業の利益最大化を大目標に掲げ、製品の進化や事業環境の変化に合わせて工場を作り変えていくのが主な仕事です。事業戦略の立案や課題の発見、社内の方針調整、活動推進など、関係部署を巻き込みながら事業最適化に取り組んでいます。

入社する前は技術部門に配属されと考えていたのですが、思いがけず事業戦略を立案する部署に配属され、最初のうちは不安を感じていました。ただ、取り組み始めてみると、会社がどういった方向に進んでいるのかを肌で感じる事ができ、とてもやりがいがあります。自分の成長を実感できる職場だと思いますね。

大学時代に語学力を高め 海外の文化に触れる経験を

吉川 岐阜大学では、専門分野である材料の知識以外にもたくさんのことを学びました。サークル活動を通じて10歳以上離れた先輩や後輩と接し、人間関係の築き方を学べたことは、他部署とのスムーズな連携を考える時などにとっても役立っています。

学生の皆さんには語学力を磨いてほしいです。私自身、学生時代に英会話スクールに通い、語学力を向上させたことが今に生きていると思います。幸いにも岐阜大学には留学生と交流する機会などがたくさんありますのでうまく活用してもらいたいです。

内田 私は大学時代に留学を経験し、異文化に触れる機会をたくさん作れたことが大きかったです。海外出張した際に生活習慣の違いなどで戸惑うことはありませんし、現地スタッフとのコミュニケーションで苦労することも少ないです。

大学のプログラムなどを利用して留学する機会もたくさん用意されています。留学した学生の報告会も頻繁に行われていますので、興味のある人はぜひ足を運んでみてほしいですね。

イビデン株式会社 PROFILE
 1912年に水力発電企業として創業以来、培ってきたコア技術から新たな価値を生み出してきた技術開発型企業。半導体ICパッケージ基板を扱う電子事業以外に、自動車排気系部品やグラファイト製品を扱うセラミック事業などがある。若手からベテランまで180人以上の岐阜大学出身者が活躍中。

ゲノム編集マウスを活用することで 犬の遺伝性疾患の原因を特定し、 「遺伝子の外科治療」の開発につなげたい。

最先端の遺伝子解析やゲノム編集技術によりマウスの性決定因子を解明、この技術を用いて犬の遺伝性疾患などを研究しています。遺伝性疾患の原因となる変異を特定し、将来的には「ゲノム編集による遺伝子治療」の確立を目指しています。



岐阜大学応用生物科学部
共同獣医学科
宮脇 慎吾 准教授

マウスの性別を決める
真の因子が明らかに。

動物の病気を治療したいと、岐阜大学の獣医学課程に進みました。同じ犬種でもサイズ、形、色が異なり、発症する病気も犬種によって特徴があります。動物の病気には分からないことがたくさんあり、これを解明したい、動物の不思議を知りたいと思い、学部生の頃には「こむずかしい」と苦手だった遺伝子の研究を行っています。

近年では、マウスやヒト以外の非

モデル生物を扱う研究手法などを学ぶため、iPS細胞を用いて長寿でがん化耐性のあるハダカデバネズミを遺伝子レベルで調べる研究に参画。研究をさらに理解するため、最先端のゲノム編集を使ってマウスの性決定遺伝子を研究しました。1990年には、ほ乳類の性がY染色体にある遺伝子Sryの有無で決まることが発見され、以来30年間、Sryは単一のエクソン^{*1}で構成された遺伝子だと信じられてきました。ところが、私たちの研究チームが最新の解析技術とゲノム編集技術で作製し

たマウスで解析した結果、マウスのSryに未知の転写産物^{*2}があることを発見。この未知の転写産物が今まで知られていなかった第2のエクソン（隠れエクソン）を含み、これが記録するSry-Tこそマウスの真の性決定因子（Sry第2エクソンへとつながる転写産物）であると明らかにしたのです（図1）。この成果が認められ、科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞しました。私たちの研究で性決定の鍵を握る遺伝子Sryの全体像が解明されたことで、今後はほ乳類の性決定の仕

組みや性決定遺伝子の進化、ヒトの性分化疾患の理解が進むと期待されています。

犬の病気発症の遺伝子を特定し
遺伝子の外科治療を目指す。



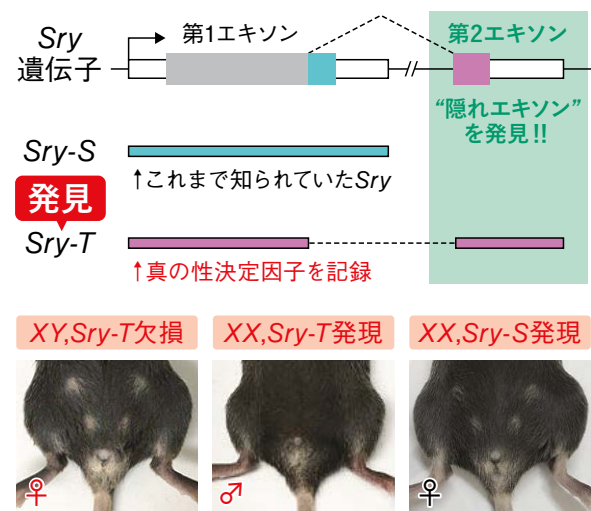
現在力を入れているのが、犬の遺伝性疾患をゲノム編集マウスで再現する研究です。犬には400ほどの遺伝性疾患が報告されていますが、その約7割は原因となる遺伝子の変異を特定できていません。私はこれをできる限り解き明かしたいと考えています。ただ、たとえゲノム配列を解読して原因となる変異を推定できても、犬の遺伝子改変は技術的・倫理的に不可能であり、本当にその変異が原因なのか

を犬の個体で立証することができません。そこで、ゲノム編集により犬と同じ病気を発症するマウスを作製し、そのマウスを解析することで遺伝性疾患の原因を特定したいと考えています。例えば、長毛の遺伝子を持つ犬に倣ってマウスのゲノム配列を1塩基だけ変えると、そのマウスは犬と同じように毛が長くなります（図2）。大きさに関しても同じようなことが可能です。そこで、小型化する遺伝子を持ったゲノム編集マウスを作製し、小型犬によく見られる肥満のメカニズムを解明したいと考えています。犬の小型化は、人に置き換えて考えれば「低身長症」にあたります。犬の疾患を研究することは、人間の疾患を究明することにもつながると思っています。これまでに特定の犬種の遺伝性疾患をゲノム解析してマウスで再現した結果、原因となる遺伝子の変異を5つほど特定しています。今後は、マウスでのゲノム編集による治療法を最適化し、犬症例のゲノム編集による

「遺伝子の外科治療」を確立したいと考えています。これら一連の研究は「ゲノム編集マウスで実現する超種間生物学の創成」という名称で今年度の創発的研究支援事業に採択されました。最近では、社会システム経営学環の森部純嗣准教授、人獣共通感染症学研究室の正谷達磨准教授とユニットを組み、野生動物のゲノム配列を再現したマウスによるウイルス感染の仕組みを分子レベルで解明する研究が進行中です。これからもさまざまな動物の遺伝性疾患や形体的特徴に関する研究を重ね、将来的には動物で得た知見をヒトの医療にも役立てていければと思います。次の「おもしろい」を見つけるために、目の前の課題に全力を注ぎます。学生には、ワクワク、ドキドキの気持ちを大切に、これに貪欲になってほしいですね。知りたいことを知れるのは今しかないのでから。

※1 エクソン 遺伝情報が記録されている部分
※2 転写産物 DNAから転写されたRNA

図1 第2エクソン (Sry-T) をマウスのSry遺伝子座で発見



これまでに知られていたSry-Sではなく、新たに同定したSry-Tが真の性決定因子として働くことが明らかになった。このことはSry-Tを欠損するXYマウス（写真左）はメスに、Sry-Tを発現するXXマウス（中央）はオスに性転換することで確かめられた。Sry-Sを発現するXXマウスは性転換しないメスであった（右）。
Science 370(6512):121-124 (2020)

図2 長毛犬多型の遺伝子をマウスで再現



外科実習用に 手術模型を開発

所属する獣医外科学研究室では、2020年から犬の手術模型の開発に取り組んできました。この模型は安価な消耗部品の交換により一人ひとりが繰り返し使用できる上、学生は生きた動物を用いることなく、より実際の手術に近い実習もできるようになりました。新しい獣医学教育を発信し、動物愛護・動物福祉にも貢献していきます。なお、このプロジェクトはクラウドファンディングで多くの方にご支援をいただいています。

馬の持つ力を引き出せるように、 深い信頼関係を築き、 ゴールを見つめて走り抜きたい。

朝日が注ぎ込む厩舎に、馬に語りかけるような優しい眼差しを向けながら毛並みの手入れをする岡部恭佳さんの姿がありました。地区予選で優勝し、今秋行われた「全日本学生馬術大会2024」へ出場した、馬術競技の実力者です。厩舎全焼から5年。再スタートを切った岐阜大学馬術部の馬場には、今日も馬たちの足音が心地よく響いています。

岐阜大学 馬術部

岡部 恭佳 さん

岐阜大学応用生物科学部
共同獣医学科 4年



岐阜大学 馬術部

1940年創立の歴史ある馬術部。現在は部員25人、馬6頭と犬1匹で活動する。平日は火曜以外の毎日、土日はコーチ（馬術部OB）を迎えて、馬に乗って歩いたり走ったりする騎乗練習や障害飛越競技で障害物を飛び越えるための訓練などを重ねている。練習だけでなく馬の世話や体調管理、餌やりは、毎日欠かせない大切な活動である。馬とのコミュニケーションも楽しいひとときとなっている。活動時間帯は主に早朝で、特に夏は5時ごろに集まり、日差しが強くなる前に活動を終える。

障害飛越競技とは

馬術競技の一種で、馬と騎手が一緒にさまざまな障害物を飛び越える競技のこと。「障害馬術」とも呼ばれる。障害飛越競技は、競技アリーナに設置されたさまざまな障害物を決められた順番どおりに飛越して走行し、そのスピードと正確さを競う。障害の高さや難易度によってA級、L級、M級、S級（学生大会では30～130cm）、そして国際レベルのG級（150cm以上）まで、さまざまな級（クラス）がある。馬術競技は、動物とともに行う唯一のオリンピック競技で、馬場馬術、障害馬術、総合馬術の3種目が実施される。



馬たちの体調管理やコミュニケーションが何よりも大切。毎朝、練習のために集まる以外に、昼・夕・夜の餌やりも部員らが交代制で担当。練習のない日も馬の体をほぐすために引いて歩いたり、暑い日は体を冷やしたりして、体調管理を行う。



演技の正確さや美しさを競う「馬場馬術競技」。3種類の歩き方を基本に、さまざまなステップを踏んだり、図形を描いたりする。



馬の能力と選手の技術、そのコンビネーションが そろったとき、最大限に力を発揮できるところが魅力。

馬に乗ったときの気持ちよさ、
楽しさが忘れられず、馬術部へ。

幼いころから動物が大好きで獣医師に憧れていました。獣医師は狭き門ですが、絶対に岐阜大学で勉強したいと思い入学を決めました。馬術部を知ったのは入学後。体験入部で、初めて馬に乗せてもらいました。馬の背中はとても大きく、想像以上に楽しくて、「自分で乗って、走ってみたい」と思い入部しました。

私たちが練習している「障害飛越競技」は、馬に乗って障害を飛び越えて走り、その速さを競う競技です。日常的に騎乗し、基本姿勢やバランス、障害物を飛び越えるときの踏み込みやスピードコントロールなど、馬と一緒に訓練を重ねています。入部当初は落馬を恐れていた時期もありましたが、練習を重ねて自分に自信がつき馬たちとの信頼関係

が深まってくると、お互いに最大限の力を発揮できるようになりました。馬はとても賢くて敏感で繊細。私たちの緊張や不安な気持ちがダイレクトに伝わってしまいます。馬が私のことを認めてくれて、心が通じ合えたと実感できる瞬間が、馬術競技の大きな醍醐味です。日々の馬の世話やコミュニケーションも部活動の一番大きな柱。馬たちが持つ本来の力が発揮できるよう、日頃から馬と触れ合いながら、馬も人も、みんなでチーム一丸となって頑張っています。

犠牲になった4頭のことを
次世代へ伝え続けていきたい。

今、馬術部には6頭の馬がいます。個性豊かで乗り心地も違う馬たちから、たくさんのことを学ぶ日々です。私が4年生になってからペアを組ん

でいる「シリウス」は、JRAで競技一筋だったアスリート。誰よりも経験豊富な大ベテランです。今年の地区予選で一位通過し、全国大会に出場できたのも、シリウスのおかげ。大先輩のシリウスに助けてもらってばかりですが、私ももっと実力をつけて、シリウスにふさわしい騎手になることが目標です。

2020年に発生した火災で馬術部厩舎が全焼、馬4頭が犠牲になりました。火災後、たくさんの方にご支援をいただきました。私たちはその記憶を風化させず、感謝の気持ちも教訓も後輩たちにずっと伝え続けていかなければと思っています。馬房に元氣な馬がいてくれて、ここで馬術を学べる環境は当たり前ではなく、たくさんの方々の支えによって成り立っていることを忘れず、馬も人も互いに思いやる気持ちを大切に活動していきたいです。



今年「第59回中部学生自馬競技会大会」のM級C障害（120cmクラス）にて岡部さんが第1位の成績を収め、秋に行われた全国大会「全日本学生馬術大会2024」に出場した。

厩舎全焼を乗り越えて

2020年6月23日の午前2時半ごろ火災が発生、馬術部の厩舎が全焼した。馬房で眠っていた馬4頭全てが犠牲となった。クラウドファンディングをはじめ、たくさんの方の支援により、火災から1年9カ月後の2022年3月に新厩舎が完成。広々としていて風通しの良い、馬にとっても人にとっても快適な活動場所が誕生し、岐阜大学馬術部はここから新たなスタートを切った。



厩舎の隣には慰霊碑があり、火災で亡くなった4頭がここに眠る。



“60分の1秒”で、すべてが決まる。 精神力と指先ひとつで闘う eスポーツの魅力をもっと広めたい。

何万人もの観戦者が見守るなか続く、白熱した戦い。勝敗を分けるのは、“60分の1秒”、わずか0.017秒という緻密な「脳のスポーツ」、それがeスポーツです。加古翔大さんは「岐阜大学 e-sports同好会」の発起人です。昨年発足したばかりですが、すでに対戦会や大会を多数主催する、勢いある同好会を引っ張っています。



岐阜大学 e-sports同好会 代表

加古 翔大 さん

岐阜大学工学部 電気電子・情報工学科 2年

岐阜大学 e-sports同好会

加古翔大さんが発起人となり2023年3月に発足。現在の部員は約20人で、週4日程度、午後には大学会館の一室で練習を重ねている。全国の大学生プレイヤーが出場するeスポーツ大会にエントリーし部員同士で模擬対戦や戦略を重ねるほか、対戦会や大学対抗戦への参戦、全国の大学のeスポーツ連合に加盟しており、リーグ戦や競技力を高めるための合宿などに参加。競技は主にオフライン（一部オンライン）で実施している。昨年はeスポーツの認知向上のため、岐大祭でeスポーツ体験イベントを自主開催し好評を博した。

eスポーツがオリンピック競技に!?

2025年にサウジアラビアで初の「オリンピックeスポーツゲームズ(OEG)」を開催することを、国際オリンピック委員会(IOC)が正式に決定したと、2024年7月に日本eスポーツ連合(JeSU)により発表された。これは、IOCがeスポーツをオリンピック競技として認め、やがてオリンピック競技になるであろうということ。新しい時代に突入することを示す流れとも解釈できる。



「eスポーツには触れてこなかったが、ゲームは大好き」と、同好会に入るメンバーも多い。加古さんはメンバーが常にモチベーション高く、目標を持って活動できるよう、全国の学生が参加するeスポーツ大会へのエントリー、オフラインの合宿、他大学との交流戦など、積極的にさまざまな企画を実施している。



滋賀県立大学の大学公認サークル「県大スマサー」と大学対抗戦を企画。



eスポーツは「脳をフルに使って闘う」競技。 性別や年齢に関係なくフェアに楽しめるスポーツです。

岐阜にeスポーツを本気で
楽しめる場所をつくりたい。

ゲームが大好きな小学生時代を過ごしましたが、競技として初めてeスポーツの大会に出場したのは中学生のときでした。大学に入学してすぐ、eスポーツに本気で取り組める場がほしいと思い、同好会を発足しました。

私たちがプレイしているのはある対戦アクションゲームで、数多あるキャラクターに異なる能力や技があり、それを駆使して戦うのが特徴です。普段の活動では、技術向上を目指して部員同士で対戦したり技術の共有や戦術の研究、戦略などの勉強会をしたりしています。先日は大阪で、全国からプレイヤーが集まる泊まり込みのオフライン合宿がありました。巨大スクリーンで対戦や配信をしたり、トーナメント戦に出場したりと、eスポーツ漬けの濃厚な2日

間でした。同好会はいつも和やかな雰囲気ですが、大会に向けての戦略会議や練習試合などは、互いに協力しながら真剣に取り組んでいます。

eスポーツはワンフレーム（約0.017秒＝60分の1秒）という単位で勝敗が決まってしまうため、精度や瞬発力が求められます。同好会では毎日オフラインで練習するため、オンライン対戦時のような遅延が少なく、精度の高い戦いができるのはもちろん「対戦相手が隣にいる」ことで空気感や息遣い、相手との思いのぶつかり合いを肌で感じることができます。また、大会などでは多いときには10万人以上もの観客が観戦することもあり、精神的にもとても鍛えられる競技だと感じています。

**eスポーツの社会的認知向上を
目指して、活動を広げたい。**

eスポーツのイメージは人それぞれ

れで、「それってゲーム?」「ただの遊びなの?」と誤解されているケースがまだまだ多いです。娯楽としてのゲームのイメージやネガティブな側面ばかりに目がいく人もいると思いますが、eスポーツは指先ひとつで本気の戦いができる、立派な「競技」です。そして性別や年齢、国籍に関係なく、誰でもフェアに戦うことができます。「体を使う」スポーツに対して、eスポーツは「脳を使う」スポーツだと言えます。多くの人にこういった競技があることを伝えていきたいと思い、昨年は岐大祭で家族連れや子どもでも参加できるコーナーを設けて、eスポーツを体験してもらい、好評を博しました。

これからもより多くの人にeスポーツの魅力を知ってもらえるよう、学内での活動はもちろん、さまざまな場所での普及促進活動にも力を入れていきたいです。

今年も岐大祭で大会とeスポーツ体験を企画！

同好会が発足して1年目の岐大祭では、自主企画の大会を開催したほか、岐阜でのeスポーツ認知拡大のため、部員がアドバイスすることで一般来場者がeスポーツに楽しんでもらえるブースを設置。参加した親子らが気軽にeスポーツを体験できるきっかけづくりとして成功を取めた。今年の岐大祭でも同様に体験コーナーを企画する予定。加古さんは「学内だけでなく、ゆくゆくは市内のショッピングモールなどでもeスポーツの啓発活動を展開していきたい」と意欲的だ。



岐大祭のイベント参加者の名札。初開催ながら、待ちができるほどの人気コンテンツになった。



岐阜大学の教員・取り組みが各種表彰を受けました

令和6年4月17日（水）

応用生物科学部 宮脇慎吾准教授が科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞



研究テーマは「ほ乳類の性決定遺伝子の遺伝子構造と進化に関する研究」。顕著な研究業績をあげた40歳未満の研究者に贈られる若手科学者賞を受賞しました。（P14-15に関連記事）

令和6年4月23日（火）

清流の国ぎふ防災・減災センターが「グランプリ・レジリエンスジャパン推進協議会長賞」を受賞



本学と岐阜県が共同設置した同センターが取り組んできた「げんさい未来塾」の実績や継続性に加え、発展性を備えた防災人材育成システムである点が評価されました。

令和6年5月28日（火）

大藪千穂副学長が消費者支援功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞



本学の消費者教育を担当し、学外において消費者ネットワーク岐阜代表および日本消費者教育学会会長を務め、国内・県内の消費者教育に貢献したことが認められました。

岐阜大学の学生および修了生が各種表彰を受けました

令和6年6月15日（土）

学生発ベンチャーの創出と起業家育成を目的とした「Tongaliビジネスプランコンテスト2024」で2つの学生チームが入賞



チーム名「GenomicGarden」
Tongali賞 優秀賞（2位）・
海外チャレンジ賞



チーム名「乳牛を救いたい」
Tongali賞 5位・OKB賞

令和6年8月10日（土）

教育学研究科を修了した赤松諒一さんがパリオリンピック陸上男子走高跳びで5位入賞



令和6年9月3日（火）～14日（土）

岐阜大学フォーミュラレーシングチームが「学生フォーミュラ日本大会2024」で総合5位を獲得



七宗町、富加町、可児市と連携に関する協定を締結しました

令和6年8月から10月にかけて七宗町、富加町、可児市と連携に関する協定を締結しました。この協定は、本学と各自治体が多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展および未来を担う人材育成に寄与すること等を目的としています。今後、本学は各自治体と連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。なお、可児市との協定は本学と岐阜県内の自治体との43件目の包括連携協定であり、これで、岐阜県を含めた県内すべての自治体との協定締結となりました。

令和6年8月1日（木）

七宗町と連携に関する協定を締結



令和6年9月19日（木）

富加町と連携に関する協定を締結



令和6年10月1日（火）

可児市と連携に関する協定を締結



八百津町で次世代地域リーダー育成プログラムの学生が料理体験イベントを開催しました

令和6年4月20日（土）

八百津町中央公民館において、次世代地域リーダー育成プログラム地域リーダーコースの学生5名とサポート学生2名が、地元小学生を対象とした料理体験教室「やおつde クッキング」を開催しました。学生らは八百津町の若者人口流出の課題に着目し、将来、若者の地域定着や関係人口の構築につながることを期待して企画を立案。参加者は楽しみながら、地域への理解を深めました。



GU-GLOCALシンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催しました

令和6年7月18日（木）

岐阜大学グローバル推進機構は、大学生・高校生の積極的な国際化プログラムへの参加を促すことを目的として、シンポジウム「世界に翼を広げたら」を開催しました。2部のセッションで構成され、各セッションでは世界で活躍するメインスピーカーをお招きしました。会場に264名、Glocal Lessonのリアルタイム配信から188名が参加し、登壇者たちの熱い思いに耳を傾けました。



駐日リトアニア大使特別講演会を開催しました

令和6年10月29日（火）

岐阜大学グローバル推進機構は、岐阜大学講堂にて駐日リトアニア共和国特命全権大使 オーレリウス・ジーカス大使による特別講演会を開催しました。本講演会は岐阜県主催の事業「リトアニアNOW2024」の一環。講演では、リトアニアの歴史や文化などの話に約200名の参加者は興味深く聞き入っていました。これを機に、学生・教職員・地域の方々のリトアニアに関する知識が深まり、本学とリトアニアの大学との交流がさらに促進されることが期待されます。



創立75周年記念日行事を開催しました

令和6年6月5日（水）

令和6年6月1日（土）で創立75周年を迎えた本学は、学内外の関係者など延べ約600名出席のもと創立記念日行事を執り行いました。式典では管弦楽団の演奏から始まり、学長報告、称号授与・表彰などを行い、その後の第56回岐阜大学フォーラムでは基調講演やフリーディスカッションを実施しました。この行事を通じて、本学のこれまでの歩みを振り返り、未来への決意を新たにしました。



国際クラブから再生可能エネルギーに関する研究教育助成を受けました

令和6年8月26日（月）

一般財団法人国際クラブにて、青山るみ代表理事から本学の植松美彦工学部長へ寄附目録の贈呈が行われました。同クラブからは、これまで外国人留学生支援など多岐にわたるご支援をいただいておりますが、昨年に引き続き再生可能エネルギーに関する研究教育活動を対象とした助成金をいただきました。本学は今後も、世界的なエネルギー問題の解決に向けた研究に取り組んでいきます。



第2回 岐阜大学ホームカミングデイ2024を開催しました

令和6年11月2日（土）

本学すべてのステークホルダーを対象に、相互の交流・連携を深め、持続可能な相互関係の構築及び相互支援に資する取り組みとしてホームカミングデイを開催。午前には、本学工学部の卒業生でホーユー株式会社 代表取締役 社長執行役員の佐々木義広氏、2014年ノーベル物理学賞受賞の名古屋大学 天野浩教授による講演が行われました。また午後には、各学部が企画した学術講演会、研究室見学、パネル展示なども催され、有意義な交流の場となりました。



岐阜大学基金では、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など教育研究活動に活用させていただきます。皆様におかれましては、岐阜大学基金の趣旨にご賛同いただき、継続的なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

アピ株式会社への紺綬褒章伝達式を執り行いました（令和6年10月9日）

アピ株式会社は、岐阜大学が創立70周年を迎えるにあたり、将来、地元産業界において「ものづくり」に従事することを視野に入れている成績優秀な学部学生等に奨学金を支給することで、勉学に一層精励する環境作りに役立てほしいとの思いから、令和元年度から5年度にかけて岐阜大学基金へご寄附をされ、この功績により、国から紺綬褒章が授与されました。

伝達式では、吉田学長が謝意とともに「奨学生はそれぞれ特色のある取り組みをして、資格取得など成果を上げることができました」と述べ、褒状を手渡しました。アピ株式会社野々垣孝彦社長は「多大な評価をいただき感謝している。これからも地域に根差したものづ



くり企業として地域発展と健康産業へ貢献していきたい」と述べられました。本学は今後も多方面にわたりアピ株式会社と連携し、地域発展に努めてまいります。

岐阜大学基金についてのお問い合わせ先

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学Development Office (DO室)
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279
E-mail kikin@t.gifu-u.ac.jp

ご寄附のお申し込みはこちら
<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>



※お振込用紙をご希望の場合は、上記お問い合わせ先へご連絡ください

ご寄附者芳名録

令和6年3月から令和6年9月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。また、10月以降にご寄附をいただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。

ご寄附をいただき、心よりお礼申し上げます。

青木 隆明 様	恵良 聖一 様	國枝 正義 様	鈴木 利昭 様	西野 佳秀 様	細田 文一 様	森下 宏子 様
浅野 勝己 様	大熊 辰夫 様	谷 熊田 様	鈴木 康次 様	西本 昇平 様	堀尾 勝幸 様	安田 洋子 様
東 修次 様	大野 勝昌 様	熊田 久米 様	高木 睦 様	二宮 輝子 様	堀尾 重禮 様	守屋 光彦 様
晴地 壮太郎 様	大野 聡 様	久米 弥生 様	高橋 哲也 様	野田 葉子 様	増田 龍彦 様	安田 直生 様
渥美 清一郎 様	大野 元 様	倉山 柳東 様	瀧下 芳成 様	野々村 修一 様	松浦 宏允 様	矢野 泰仁 様
荒井 詩和 様	大橋 和義 様	畔柳 勉 様	武井 兼蔵 様	野村 務 様	松浦 典芳 様	安田 純三 様
安藤 証博 様	大橋 紘 様	桑原 尚志 様	竹内 敏視 様	服部 圭子 様	松田 聖士 様	藪田 多朗 様
池谷 尚剛 様	岡崎 正樹 様	桑原 正彦 様	竹中 俊介 様	馬場 紀行 様	松原 秀樹 様	山口 裕子 様
石川 由美 様	岡田 和明 様	小池 敦 様	田島 直樹 様	濱島 俊広 様	松本 健巳 様	山崎 和久 様
石黒 めぐみ 様	小川 隆幸 様	越路 正敏 様	田中 伸次 様	早川 治彦 様	水谷 恵子 様	山田 智子 様
市川 幹雄 様	奥村 哲司 様	小島 直剛 様	棚橋 忍 様	早川 鉄也 様	水野 正一 様	山中 實生 様
市原 美里 様	奥村 啓介 様	後藤 浩子 様	棚橋 直勝 様	早矢 仕昭 様	溝口 敏博 様	山本 典生 様
伊藤 克己 様	小田 近 様	近藤 秀男 様	谷口 和視 様	林 秀男 様	三谷 省造 様	山本 浩 様
伊藤 利夫 様	鹿島 近 様	近藤 末臣 様	種村 廣巳 様	林 美和子 様	美濃 輪博 様	横井 利彦 様
伊藤 實 様	加藤 隆雄 様	酒井 弘之 様	近松 秀計 様	菱井 明人 様	宮口 博明 様	吉川 利彦 様
伊藤 靖浩 様	加藤 規康 様	坂倉 健男 様	塚本 吉宣 様	菱川 昇 様	三宅 収 様	吉田 稔 様
伊藤 克昭 様	門脇 弘子 様	坂下 淳匡 様	都瑠 浩司 様	平井 瑞子 様	三宅 敬造 様	吉本 光一郎 様
井上 進 様	河合 武 様	酒向 英三 様	鶴丸 雅弘 様	藤井 ゆかり 様	宮嶋 孝士 様	若原 和男 様
今井 康博 様	川島 公洋 様	笹井 木雄 様	出口 京子 様	藤垣 照 様	村井 利昭 様	脇本 博 様
今泉 竹司 様	木田 精一 様	佐藤 正和 様	寺倉 明夫 様	藤代 勝 様	村上 啓雄 様	脇本 保雄 様
今尾 茂樹 様	北川 実 様	佐藤 万仁 様	時井 博明 様	藤森 了堅 様	村松 弘章 様	渡辺 浩貴 様
岩井 宏道 様	北村 裕美子 様	茂野 一彦 様	長井 雅宏 様	武内 康雄 様	村松 伸 様	渡邊 義信 様
岩田 哲夫 様	北山 則子 様	下平 俊治 様	中上 栄治 様	船橋 まゆみ 様	村本 望月 様	
岩田 文子 様	久世 和奈 様	居樹 容子 様	長瀬 中村 様	古橋 徳昭 様	本山 克彦 様	
岩田 元 様						
岩間 武久 様						
内田 智志 様						
鷗野 善雄 様						
浦田 好造 様						

他104名様

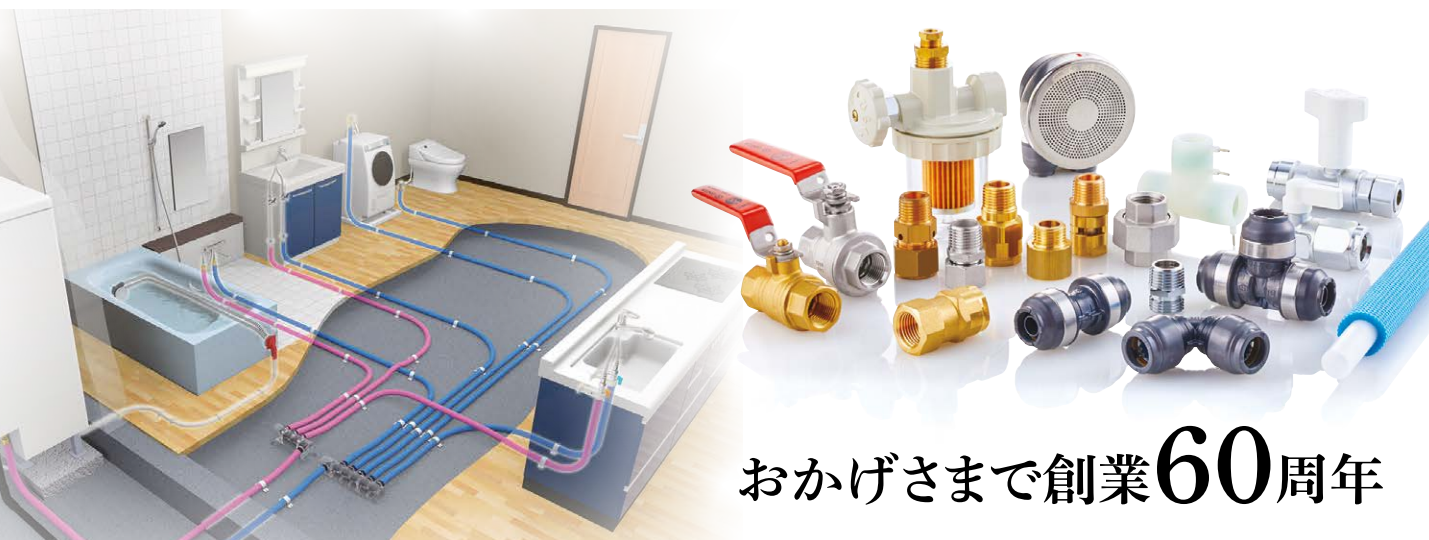
法人・団体等

アプロ通信株式会社	カイ インダストリーズ(株)	岐阜大学工業倶楽部中部支部	(株) CMC 総合研究所	はやし内科クリニック
イビデンエンジニアリング(株)	(医) カワムラヤオメディカルソサエティ	(医) 香風会 黒野病院	(医) 社團基金会おのレディースクリニック	馬瀬建設(株)
(医) 大垣徳洲会病院	(一社) 岐阜県医師会	公立学校共済組合 東海中央病院	近石病院	やまが整形外科
(医) 大橋胃腸肛門科外科医院	岐阜県植物誌調査会	(一財) 国際クラブ	(医) 白鳳会 鷺見病院	(医) 録三会 太田病院
大前医院おぞ診療所	(地独) 岐阜県立多治見病院	国際ソロプチミスト 岐阜・長良	羽島市民病院	(医) 和光会 山田病院

他5法人

株式会社 オンダ製作所

配管資材の総合メーカー、あなたの暮らしを支えます。



おかげさまで創業60周年



〒501-3263 岐阜県関市広見851番地の3
<https://www.onda.co.jp/>



※広告に関するお問い合わせは各企業・団体までお願いいたします。

岐阜大学2025カレンダーを作成しました！

この度、岐阜大学では、美しい風景やキャンパスの魅力を詰め込んだカレンダーを作成しました。令和5年10月以降に岐阜大学基金へご寄附いただいた皆さまへ感謝の気持ちを込めてお届けします。ぜひカレンダーを通じて岐阜大学の魅力をお楽しみください。



アンケートに答えて 岐阜大学オリジナルグッズを GET!!

今後のより良い誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。岐阜大学広報誌「岐大のいぶき No.48」に添付されたアンケートハガキでアンケートにご協力いただいた方の中から、抽選で6名様に学生がデザインを考案した『岐阜大学マスキングテープ(2種類)』を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。



プレゼント応募締切：令和7年5月31日(土)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※重複での応募は無効とさせていただきます。



「岐大のいぶき」について
「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生気・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、「伊吹おろし」と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

岐大のいぶきは WEB からでも
ご覧いただけます！

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



岐阜大学公式 X(旧 Twitter) やってます。





世界の半導体メーカーと最先端のICパッケージ基板を開発

ICパッケージ基板は、ICチップ（半導体）と一体となって機能する重要な部品です。

パソコン・データセンター向けCPUやAI・自動運転向けGPUなど、最先端分野を手掛けており、半導体の高機能化に伴い、その重要性が増しています。

基板の大型化・高多層化、微細化など難仕様が進む中、世界の半導体メーカーからの多種多様でハイレベルな要求に対し、日々仲間たちとトライ＆エラーで業界をリードする次世代の製品開発に取り組んでいます。

企業HP



イビデン